日経新聞 2017.6.24(土) 夕刊

部員の前で落語を演じる松山さん（兵庫県西宮市の関西学院大）

キャンパス新景

関西学院大

学生落語で快進撃

「いち、にい、さん、……はよ噛（か）めや！」。関西学院大西宮上ケ原キャンパス（兵庫県西宮市）の和室で行われた稽古の一幕。迫真の語りと学生の爆笑が響く。

中毒を怖がる男らの滑稽な様を描いた「河豚（ふぐ）鍋」。紫色の着物姿で古典落語を披露したのは「甲山（かぶとやま）落語研究会」の4年、「四笑亭笑ん太（よんしょうていえんた）」こと松山直樹さん（21）だ。

昨年2月に行われた学生落語の全国大会で日本一に輝いた。「自らの表現力だけで笑いをとる落語は奥深い」とプロを目指す。

同会は47年の歴史があり、メンバーは82人。3年生で部長の浮気（うき）紳吾さん(20)によると、日本でも1、2を争う大所帯という。浮気さんも今年2月の全国大会で8人が進む決勝に勝ち残った。

稽古は先輩後輩を問わず、アドバイスし合う。松山さんが「面白い人がいると活気づく」と言えば、「部員の仲が良すぎるから、大会では他大学に鬱陶しがられるほど」と浮気さん。

にぎやかさに誘われ、今年も落語を知らない新入生が続々入部した。快進撃を支える和気あいあいとした雰囲気が、噺（はなし）家の裾野を広げるのにも一役買っているようだ。